



『紅葉』

作曲 岡野 貞一
作詞 高野 辰之

秋の夕日に照る山紅葉

濃いも薄いも数ある中に

松をいろどる楓や蔦は

山のふもとの裾模様

溪の流に散り浮く紅葉

波にゆられて離れて寄って

赤や黄色の色さまざまに

水の上にも織る錦



子どもの声が学校をつくる

校長 髭白 梨香

9月から始まった6年生との校長室会食は、子どもたちが思いを語る時間になっています。校長室で給食を囲むと、心の奥にしまっていた思いや願いが、ゆっくりと言葉になっていきます。テーマは「原小学校がもっと素敵な学校になるために」。子どもたちは、普段の教室では聞こえてこない学校生活への思いや願いを語り始めます。「原小学校をもっとよくしたい」「こうしたら、みんなが安心できると思う」そんな言葉が広がり、校長室は子どもたちの小さな対話の場になります。

ある日、こんな声がありました。「1年生ともっと交流したいです。」「下級生といっしょに遊んで、交流給食をしたら、もっと仲よくなれると思います。」「6年生は下級生の姿をよく見えています。学校全体のことを考え、関わりを通して支えたいという思いが育っていることが伝わってきます。

別の日には、学校環境についての願いが続きました。「図書館をもっと使いやすくしたいです。」「静かに読書できる場所が増えたら嬉しいです。」「

「体育館に冷房がついたら、もっと活動しやすいと思います。」「短縮6時間の日があったら、ゆとりをもって過ごせると思います。」「芝生をもっと広くして寝転んで、みんなとゆっくり話をしたいです。」「ほっとできる憩いの場がほしいです。」「休み時間ってにぎやかで楽しいけど、少し気持ちを落ち着ける場所があったら、みんな安心できると思います。」「子どもたちは、にぎやかさだけでなく、静けさが学校生活にとって大切であることにも気づいています。

また別の日には、学校全体のつながりについての声が重なりました。「学校全員で集会がしたいです。みんなで集まると、原小学校がひとつになった感じがします。」「下の学年の子が楽しそうにしているのを見ると、嬉しくなります。」「6年生は、学年を越えた一体感や、全校で活動することの価値を感じ取っています。学校全体を見渡す力が育っている証です。どの言葉も、最上級生として学校全体を見つめているからこそ生まれるものです。6年生には、「みんなが卒業するまでに実現できるものと、できないこともあるよ」と最初に伝えています。それでも子どもたちは、「いつか、下級生がそんな原小学校で過ごせるといいな」と、未来の学校を思い描きながら語ってくれました。

6年生との校長室会食は、今も続いています。子どもたちの言葉は、原小学校がこれからどんな姿になっていくのか、その景色が少しずつ見えてきます。子どもたちの声をまんなかに置きながら、「こんな学校になったらもっといいな」という願いを、子どもたちとともにつくっていきます。子どもたちが語ってくれる願いは、原小学校が「明日も来なくなる学校」へと歩み続けるための、道しるべです。これからも、一人ひとりの思いを丁寧に受け止めながら、子どもたちの声を原動力として、学校づくりを着実に進めていきます。